

順正高等看護福祉専門学校

第3期(令和3年度)自己点検・自己評価報告書

I. 基本事項

本校の教育方針

建学の理念の具現化を目指して、以下の教育活動を展開する。

1. 中途退学者 0 名、留年 0 名をめざす
2. 最終学年全員が国家資格を取得し、希望する進路に進める
3. 学生の自律・自立を促す教育実践を行う
4. 講義・演習・実習へと進化する学習体系に適應できるよう、種々の工夫を学生視線で構する
5. 下記のプロジェクトがPDCAを効果的に回し成果を出す
 - (1) 国試対策
 - (2) 教員研修

学生に関する情報

学生数(2021年5月1日時点)

学 科	人 数	内 訳
看護学科	45 名	1年 0 名(募集停止) 2年 22 名(男 8, 女 14) 3年 23 名(男 9, 女 24)
介護福祉学科	18 名	1年 10 名(男 6, 女 4) 2年 8 名(男 2, 女 6) (両学年とも全て留学生)

中途退学・除籍者数(2021年度中)

学 科	1年生	2年生	3年生
看護学科	0 名 (募集停止)	2 名 (男 1, 女 1)	2 名 (男 1, 女 1)
介護福祉学科	1 名 (男 0, 女 1)	0 名 (男 0, 女 0)	-

居住状況(2021年4月調査)

自宅通学 (高梁市内-市外)	自宅外(アパート等) (高梁市内-市外)
20 名 (2 名 - 18 名)	25 名 (22 名 - 3 名)

卒業者数(上段)、及び国家試験合格者数(下段) (2021年度中)

看護学科	介護福祉学科
卒業者数 21 名	卒業者数 8 名
国試合格 19 名	国試合格 3 名

就職状況(2022年3月末調査)

岡山県内就職者数	岡山県外就職者数	進学者数
看護 11 名 介護 6 名	看護 7 名 介護 2 名	看護 0 名 介護 0 名

Ⅱ. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 基礎学力強化を図るため、各学年における教育課題を明確にし、一貫した指導と実践評価を行う。

<看護学科>

- 1) 国家試験対策プロジェクトを中心に、受験者の100%合格を目指す。

①指導内容の統一

講義・実習での指導内容の精選と指導の質的レベルを一定にする

②教員一人ひとりが責任と役割を自覚し指導する

学生の到達度と課題を明確にするとともに、各学年の計画に則り取り組んでいく。学生個々の成果が出るように、学生指導を行う。

- 2) シラバス内容充足を図るとともに、国家試験出題基準を参考にしながら科目間の重複等を確認し教育内容を検討する。

<介護学科>

国家試験の100%合格を目指し、学生個々の学習進度に合わせた丁寧な指導を行う。

①学生理解・・・定期的な模擬試験、ミニテスト、学生面談を実施し学習進度の把握に努め、個々の課題を明確にする。

②指導内容の統一・・・順正夢ノート※を活用し、学生の学習成果が可視化できるようにする。各担任が分析し、指導内容が統一できるようにする。

(※月間の目標を学生自身で立て、達成までの道のを担任教員と共有する。)

③教育内容の充実・・・実習に柱を置き、実践力を身につけるために、各科目で連動した学習ができるように教育内容を検討する。

【自己点検】

看護学科

3年生は臨地実習終了後、国家試験対策授業や模擬試験を計画的に導入し学生の状況に合わせた学習方法などを指導するために、教員全員が3年生を数人担当し個別指導を取り入れた。概ね、学力強化に結び付くことができた。

本年度のシラバス内容を見直し、必要箇所の修正を行うことができた。

介護福祉学科

模擬試験、国家試験対策を計画的に取り入れ、学生の進捗度に合わせた個別指導を併用しながら、全体的な学力強化に取り組んだ。

担任が、毎月順正夢ノートを確認し、指導状況を学科教員で共有できた。

科目間で連動した学習が行えるように教員間で教育内容を共有し、実習に臨むことができた。

【自己評価】 A B C

.....

(2) 学外講師の意見や助言、示唆を尊重する。

<看護学科>

授業中の学生の状況を把握するために、授業開始前後に担任、教科担当者などが学外講師と情報交換し教育指導に活かしていく。

<介護学科>

講義前後の時間に外部講師と情報交換を行い、学生一人ひとりの状況を把握し、効果的な学習が行えるように連携を強化する。

【自己点検】

看護学科

昨年につき、新型コロナウイルス感染拡大に伴い講師連絡会議は中止した。
そこで、講義前後に学外講師と本校教員が情報共有を行い、学生の状況が把握できた。

介護福祉学科

学外講師との連携を図るために講義前後の時間に情報交換を行い、学生一人ひとりの状況を確認することで効果的な学習指導が行えた。

【自己評価】 A B C

.....

(3) 保護者と密な連携をとり、ともに学生を支える関係を作る。

<看護学科>

保護者とチューター間の関係を構築し学生支援に当たる。日頃から、学生の状況を把握し必要に応じて保護者を交えた面談を実施する。

<介護学科>

必要に応じて保護者と連絡を取り合う。(全員留学生につき父母は海外在住)

【自己点検】

看護学科

学業成績、出欠状況や学内で気になることがあれば、保護者と連絡を取りながら学生指導に当たった。

介護福祉学科

問題行動もなく、保護者と連絡を取るような事案はなかった。

【自己評価】 A B C

.....

(4) 学生には丁寧な説明を心掛け、納得・合意が得られるよう関わり、信頼関係を築く。

【自己点検】

看護学科・介護福祉学科

教員一人一人が、授業や実習、ホームルーム、個人面接等を通して、その都度学生への説明と同意を得ながら物事を進める努力をした。また状況により、チューターのみでなく、関係教員も調整に当たることができた。

【自己評価】 A B C

.....

(5) 低学力の学生には、個別指導・補講・学習の仕方などの教授を計画的に企画・実行するとともに、学年ごとの学力向上に向け取り組む。

<看護学科>

2年： 効果的な学習習慣を身に付けるように働きかける。

学習経過記録を活用し学習時間や内容を可視化し指導する。

解剖生理学と病理学、看護学のつながりがわかる学習課題を設け調べながら理解する経験をつませ、テストなどで確実に理解できるようにする。

3年： 模擬試験を有効活用し、合格圏に入れるよう成績状況をふまえ学習をサポートする。実施した模擬試験の見直しを行い、確実に知識が身につくよう指導する。臨地実習での学びが、国家試験に直結することを意識させ、実習前・後の時間で出題基準や過去問を活用した試験を実施し、学力を強化する。

また、実習中は、毎週金曜日の朝小テストを行い知識の定着を図る。

<介護学科>

1年： 提出期限を設けた課題やミニテストを実施し学習習慣を身につける。単語帳を有効活用できるよう指導し、専門用語が定着できるようにする。日本語能力試験未取得者は N3 合格。N3 取得者は N2 を目指す。日本語強化学習としてロールプレイ、宿泊研修、接遇研修、レクリエーション研修を計画する。

2年： 定期的に模擬試験を実施し学生の学力を分析した上で、個別の学習計画を立て、学生が計画的に学習できる体制をつくる。国家試験に対応できるように計画的な日本語学習を立て、実践する。

【自己評価】

看護学科

2年生・・・必修対策として Google Classroom を用いて選択式問題を解き、関連する成文式問題で反復トレーニングを行い、再度、選択式問題で知識定着テストを実施。

その後、指定の範囲の内容で翌週毎週月曜日にペーパーテストを実施し 80%以上で合格とした。

全員が学則上の必要単位が認定され臨地実習を開始し、3年次に進級した。

3年生・・・実習中は、グループ毎で1回/週を目安に小テスト（必修問題）を実施していた。実習終了後は5回/週の毎日、朝テスト（必修・一般問題）を実施した。

確実に知識が定着できるよう見直して、正答率の低かった問題は復習テストを実施した。

10月からは、2～4名の学生に対して教員1人が、担任と情報交換しながら学習支援を行った。模擬試験後は、模試直しを行い、知識定着のため、再度、復習模試を実施した。

10月19日からは、国家試験対策授業を開始し、定期的に業者の模擬試験、また、国家試験ガイダンスも取り入れながら、合格に向けて取り組んだ。

看護師国家試験の結果は、合格者19名/21名で90.5%の合格率であった。

介護福祉学科

1年生・・・提出期限を設けた課題やミニテストを実施することで、専門用語が少しずつではあるが理解できるようになってきた。

年間を通して日本語強化学習（接遇・レクリエーション・ロールプレイ演習・宿泊研修）を立案し、学生も積極的に参加した。全員2年次に進級した。

2年生・・・模擬試験、朝テストをもとに担当教員を決め、学生が個別の学習計画を立て実施した。

担当教員は毎日学生の学習状況を確認し、必要に応じて学習支援をした。

全員（8名）国家試験を受け卒業し、合格者は3名（合格率37.5%）であった。

【自己評価】 A B C

.....

2. 研究関係

- (1) 看護教育評価を行い、学会等への投稿に取り組む。
継続して教育評価を行い、来年度に向けたレビュー作成につないでいく。
- (2) 学会、研修に各自参加し、看護・介護教員としての教育力・指導力の向上が専門職者育成に寄与できるよう努力する。
各教員が教員継続研修会、学会、国試験対策セミナーなどに参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努める。
- (3) 学生が持つ問題や課題を学生自身が解決できるような教員のかかわりについて事例検討を通して学ぶ。
看護学科・介護学科共通で、学生の理解と関わり、教員自身のストレスマネジメント、事例検討など定期的に勉強会を持つ予定である。

【自己点検】

看護学科・介護福祉学科

各教員が、研修会（コロナにより、リモート視聴が中心）に参加し自己研鑽に努めるとともに、教育に還元できるよう取り組んだ。

【自己評価】 A B C

.....

3. 就職・進路指導計画

- (1) 看護学科・介護福祉学科共に最高学年を対象に進路ガイダンスを数回実施し、将来の目標、適性等考慮して自己の進路決定、選択ができるよう指導する。
＜看護学科＞
進路ガイダンスを3月から5月にかけて実施する。進路希望調査（第三希望まで）を行い具体的な就職指導を行う。
＜介護学科＞
ハローワークと連携を図り、幅広い就職活動が行えるようにする。
- (2) 履歴書の書き方、小論文の書き方、面接要領等を具体的に指導する。
進路ガイダンスでは、外部講師による就職活動の進め方と履歴書の書き方の指導。
また、教職員による個別指導の他にも、ハローワーク相談員による個別対応（予約制）を行う予定である。
- (3) 現場で活躍している先輩、施設長、実習指導者に体験等を話してもらい、プロとしての生き方、考え方から自分の将来をイメージし、就活の参考にする。
本校卒業生に体験や入職時の様子を話してもらい、就職後の自分がイメージできるようにする。
- (4) 学園主催の就職懇談会に参加し、参加した施設関係者との繋がりを大切にする

【自己点検】

看護学科・介護福祉学科

(看護) 進路ガイダンスを3月、6月の2回実施した。6月にはナースセンターより講師を招き「自分に合った職場選び」や「ナースセンターの役割」等の講義を実施した。

また、卒業前に進路ガイダンスのまとめとして「仕事をする上での姿勢」等について指導した。

3月途中の就職率は66.7%だったが、国家試験発表後に就職活動を開始した学生も順調に内定を得られ、就業しない3名を除いて、最終就職率100%であった。

(介護) 卒業生に就職後の現場の様子や自分の就職活動についての経験を語ってもらう時間を設け、就職活動の不安を取り除いた。

就職懇談会は開催できなかったが、リモートでの病院、施設との懇談や、来校された施設、病院関係者の方への対応を丁寧に行った。12月までに、全員希望する施設への就職を果たすことができた。

【自己評価】 A B C

.....

4. その他の事業

(1) 校舎及び設備の老朽化に対処し、備品の更新を適切に行う。また、教具・校具とその附属品の破損等をチェックする。

(2) 社会貢献活動として、介護職者に向けた研修会(県補助金を活用)を実施する。

【自己点検】

看護学科・介護福祉学科

故障には修繕で対応した。大型備品の新規購入及び更新はなかった。

社会貢献は、10月29日(金)岡山コンベンションセンターにて、介護職者向け研修会を開催した。

演題:「ICTの活用で変わる現場～記録が繋げる人とひと～」

講師:社会福祉法人和福祉会 特別養護老人ホーム庄の里 施設長代理 尾崎紀之氏

【自己評価】 A B C

.....

注) 自己評価の基準

A・・・高い成果をあげた

B・・・一定の成果をあげた

C・・・成果がなかった、又は目標に著しく届かなかった